

議 事 録

目 的	第3回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年8月4日（火）19:00～20:30
-----	-------------------------

場 所	本庁2階 会議室
-----	----------

部 会 名	第4部会
-------	------

内 容	
-----	--

○出席者

委員：北裏佳代委員、堀内達也委員、若林正也委員、石川郷子委員、中村レイ委員

市：教育総務課 佐野課長、山本調整監、福祉保健課 三鬼課長、生涯学習課 世古係長、市長公室 森下係長

○主な協議等内容

- ・次回開催日 平成28年8月22日（金）19時～
- ・質疑応答 以下のとおり

進行：部会長 堀内達也委員

○質疑

◆411 子育て支援の推進について

委員：「施策の現状と課題」の1つめで、「義務づけられました」というのは国の施策だと思う。2つめからが尾鷲市の現状と課題だと思うので、分けて表記してはどうか。

ネウボラというフィンランドのシステムがあるが、前回の審議会の意見からも、母親に対するケアをもっと行うべきであり、例えば転勤によって来られた方や誰に相談したら良いか分からない方が少しでも話ができるようなものがあれば良いという意見がどこに反映されているのか、と思うところがあり、貴重な時間を割いて出された意見が、的確に反映されると良いと思う。

「主な取り組み方針」の3つめ、「集約」ではなく「収集」ではないか。また、「必要としている人」ではなく、誰にでも情報を撒くべきだと思うので、「必要に応じた情報を多くの人に」と、この2点を変えていただきたい。

「関連する計画」について、全般に気になっているのだが、すべての計画が28年度～33年度までズブズブに切られていて、これの評価と総合計画との整合性が取りにくいのではないか。総合計画と関連する計画をできるだけすり合わせていく努力はなされるべきである。

三鬼課長：「施策の現状と課題」の書き出しだが、国の現状があり、市の現状が並んでいる順番だが、ご意見も踏まえ、全体的な整理をしたほうが良い。総合計画全体で、基本としては「国がこういう現状の中、市はこういう取り組みをやっている」というスタイルで今まで来ているので、それを今回どうするかを含め、国とは分けて表現してはどうかという意見なので、参考にさせていただく。

2点目、尾鷲市版ネウボラについて、途切れのない子育て支援については、子育て支援を必要とする母親が必要な情報を必要ところで取得でき、それを活用できることが一番望まれていて、名張市のようなマンツーマンに近い形で妊娠期から子育て期まで保健師などが関わるのが理想

だと思う。それがまだできていない。子育てを支える情報や機会は尾鷲もあるが、それを上手く伝え切れていないのと、コーディネートする役割が不足していると分析する。その中で表現としては「主な取り組み方針」の4番目で表現したいと考えている。一番望まれるのはワンストップ化で、例えば、福祉保健センターを一つの相談窓口として、そこにいる保健師と職員でそういう役割を果たすことができないか、ということが一つ課題とされる。それ以外にもっと子育て支援の目標、コーディネート役を育てることも一つの方法だが、そういうことも含め、ここは重要課題であると捉えているので、表現にもう少し工夫を加えたいと思う。

委員：今後の重点課題としてもう一步踏み込んだことを目標としてやっていていただきたい。

◆412 未就学児への支援について

委員：「取り組み方針」に「食育の取り組みを推進します」とあるが、食育というととても幅が広いがどういうものか。

三鬼課長：お手元にある「尾鷲の食づくり基本計画」に各世代の食育を定めており、福祉保健課を中心に乳児期から離乳食教室などの形で食育に対する考え方を保護者も含めて育てていく。あわせて歯の健康も大事なので、高齢になってからも歯を失わず、おいしく食べて健康にいられるように、離乳食の時から歯の健康を含めて、同時に食べることの大切さと、保護者にはバランスの取れた食事を小さい時から提供することで子どもたちの意識も変わってくるという意味を含めている。

委員：食育は本当に幅が広いので、生きているものを「いただく」というのが食育になっていくので、そういうものも入れていただいても良いかと思う。小さい時から食べていくもの、「いただく」という意味での食育、どちらになるのか、教育委員会はどうか。

佐野課長：どちらかという、食を感謝して食べる、いただいているという教育的な部分大きい。幼稚園は2つしかないが、いずれも給食である。同じものを皆で食べる、そういう流れとしては、それを「いただきます」「ごちそうさまでした」という中で食に対する感謝なども教育できたらということが大元である。それと、健康につながる食に対する考えをプラスアルファしていくということだと思う。

委員：食育に関して、「子ども食堂」つまり貧困家庭の食育が非常に問題になってきているが、それについては尾鷲市では何か対策、取り組みはないのか。

三鬼課長：子ども食堂は今年に入ってから報道も頻繁にされていて、三重県でも最近そういう動きがあり、この地域も、有志の方からニーズがあれば活動したいという申し入れがあり、今ニーズがどこまであるかを検討しているところである。単純に食事を提供するだけではなく、子どもの居場所、相談する場所とリンクして、その延長線上として子ども食堂のあり方があると思うので、ちよど市も、特に一般的に比較的ニーズが高い一人親家庭の方に今月お会いする月間であり、こういう仕組みがあったらどういう形で利用したいかというアンケートを取っている。そのニーズも踏まえ、どういう形でのサービス提供がふさわしいのかを検討していくことにしており、まだ具体的には決まっていない。

委員：取り組みとして入れていただけたら有り難いのと、「子ども食堂」をボランティアがする用意があると手を挙げた地域のニーズを把握する取り組みが必要だと思う。一人親のニーズではなく、提供者とニーズの地域的なマッチングが大事だと思う。また、教育と福祉を一緒にやっていくことを、この中で食育として明記していくことが必要だと思う。それをもう少し分かりやすく、「主な取り組み」に書いていただけたら有り難い。

取り組みの2つめの「一時預かり保育等のサービス」の「サービス」は字として要らない。「一時預かり保育の充実を図ります」で良いと思う。

「施策の現状と課題」の「尾鷲市保育所整備基本計画」が「関連する計画」の中に入っていないので入れたほうが良いのではないか。

三鬼課長：仰るとおりである。入れる方向で検討したい。ニーズの把握も各地域でするのが本懐だが、入り口として一人親家庭をとということで、今月会うチャンスがあるので、それから始めたいと思う。

◆413 学校教育の充実について

委員：子どもが学校に満足しているか、していないかということは、先生に対しても含まれるのか。

佐野課長：これは、学校の中での満足度、施設から教職員、授業までを含めてである。学校の中身は勉強だけでなく、友だちなど色々な要素があって学校が好きか嫌いかがある。そこを拾い上げられるようなアンケートをしたいと思っている。

委員：それによっていじめ問題もわかってくる。

佐野課長：いじめは、尾鷲市は今のところ大きな話はないが、他地域ではびっくりするようなこともあったりする。今回「いじめ防止の基本方針」を立てたが、市としては今の段階で言うところの防止というよりも未然の策が築けるような、何かあった時はそれが横のつながりの中でも共有できるような形にしたい。それが「現状と課題」の最後の一文と「取り組み方針」で、言葉としては「未然防止に努めます」となるが、特に横のつながりもできるようにしたい。

委員：「学校教育の充実」にこの間ネットのことも出ていたと思うが、「現状と課題」の中には入っていないのか。

佐野課長：SNSを含めて、子どもを取り巻く環境の中の一つにネット環境があることについては、少し考えたい。

委員：いじめの中に入るかと思ったのだが。言葉としても充分必要なことである。

委員：素朴な疑問だが、私たちの年代は教育というのは義務教育であり、教育を受ける権利があるとすぐ思うので、アンケートで「児童が学校に満足している」というのは、非常に違和感がある。教育というのは学習を促進するために、本来なら、例えば小学校を出るまでに読み書きそろばんができる、それを達成するのが義務教育なのではないかと思っているが、そこが違うのか。教育についての基本の話として、小学校を出るまでに読んで、書いて、足し算ができないとやはり困るのではないか。

山本調整監：学校が楽しい存在でないと不登校が出たりして義務教育の目的自体が達成できない。やはり、そういう目的を達成しようと思うと、ベースになるのは子どもたちが楽しい、行きたい、そういう状況を作っていくことが一番大切ではないかと考える。

委員：それでは、現状はどうかということ子どもに聞くのか。

山本調整監：そうである。さらにもっと楽しくするように学校としてどんな部分を改善していったら良いのか、そのためにアンケートをする。

佐野課長：現実として学校に行きたくないか学校に行くとなるとおなかがおかしくなるという不登校の子がいる。そういう子たちが出ないような学校とは何か、学ぶ場でもあるが、子どもがそこに集える、行ける場所にするにはどういうことができるのか、ということがある。

委員：いつも色々なところで言わせてもらうが、プロが書いたものは本当に分からない。例えば、「現状と課題」の一番下になぜ尾鷲市なのに尾鷲高校という県の管轄のものが出てくるのか、とか。

委員：公立で県の管轄であるため、今まではほとんど市と高校は接点がなかったが、こうして市の方に入っていただき、尾鷲高校の子どもたちに、地域を支えるとはどういうことかという「まちいく」

をすることによって、子どもたちの郷土愛につながるので、尾鷲高校としては有り難いことである。

委員：これは県の事業にタイアップしているような文言というのか。

佐野課長：三重県立の学校ではあるが、尾鷲にあって、尾鷲高校に行っている子どもは尾鷲の子が多い。尾鷲高校があるから尾鷲の子どもたちが尾鷲高校に行く流れがある中で、尾鷲高校が充実した学校になると、尾鷲中学校を卒業した尾鷲市民の子どもたちがそこで教育を受けられる。だからそこについて、尾鷲市が高校を立派にするという話ではなく、連携してやっていかなければならないという話である。県立の学校ではあるが、立地も含めて尾鷲にある高校であるということで、尾鷲高校には尾鷲の子どもたちが基本的には行くということを考えた時に、尾鷲高校の充実に向けて市も協力できることはしていくという話である。尾鷲市が高校を運営するという話ではない。

委員：充実したと言われたら何か予算的な措置をする感じがする。素人が読むととても不思議な文章に見える。中学校と高校の連携は必要だと思うし、先生同士の交流は本当にしてほしいと思うが、もう少し違う表現の仕方がないのか。

佐野課長：ここでは「協力を行います」と書いてあり、「やります」とは書いていない。尾鷲高校の名前が出ているのがおかしいと言われるが、尾鷲市として、尾鷲高校を子どもたちが行く受け皿として、その部分については取り組みも含めて、尾鷲市で協力できることはしていきたいという内容である。市の財政を含めて予算を付けるという話ではなく、現状のところは、「実施する」ではなく「連携が必要になる」という取り組みの目線であって、「取り組みの方針」については、「取り組みへの協力を行います」が述語なので、そういう観点から見ていただくと有り難い。

◆421 生涯教育の推進について

委員：「現状と課題」の二つめと下から二つめ、「老朽化」が二つ出てきてよく似た文言なので一つにしたほうが良いのではないか。

「尾鷲学」と出てくるが、下に※で「尾鷲学とは」と入れていただけると有り難いと思う。それと「生涯教育」は「生涯学習」にならないか。教育は義務と権利であって、生涯のほうは学びたい人が学べるということで教育という言葉だとおしつけがましい。ずっと「生涯教育」という言葉が出てくるが、できれば「学習」に統一していただきたい。

「主な取り組み」の4つめ、「指導者として」は仰々しい。皆が気軽に教えていってはどうかと思う。5番目の文化財の「保護や継承」と「登録」は全く違う事業なので別立てで書いていただきたい。

世古係長：「施策の現状と課題」の老朽化の部分は、施設の種類として中央公民館や図書館は、生涯教育・社会教育という趣旨の施設であり、文化会館については生涯教育だけでなく、商業的なこともできるので分かれている。

尾鷲学については、明確な尾鷲学の定義を限定しすぎるとハードルが高くなってしまう部分があり、例えば専門性を持った、より学術に徹底した尾鷲学というイメージを持たれる方もいれば、そうではなく、地域のことを広く学ぶという意味の尾鷲学など、色々出てくるので、こちらに関しては右側の「主な取り組みの方針」の3つめ、「地域学としての尾鷲学を積極的に推進します」というスタンスでさせていただいているが、尾鷲の町で尾鷲について学ぶという、今のところそのような捉え方をしていただきたい。

委員：それを書いていただければ、非常に分かりやすい。

世古係長：「指導者」については、確かに言葉が硬い部分があるので何か良い表現があれば変えられたらと思う。

委員：技能を地域に還元するというのは皆が日々積み上げてきたことをそのまま地域の子どもや人々に

教えていくということなので、誰かが認定して「あなたは指導者です」というような硬いものではない。取ってしまえば良い。

委員：指導者というのはスポーツ少年団のある地域の人が全部やっている。それは指導者として来ているのか、どうなのか。

世古係長：この部分で想定しているのはおそらく講座等の講師や、サークルなど皆の前で教えていくという形である。

委員：ここは「生涯教育」なので、「指導者」という言葉を使っているのではないか。公民館行事としてなら「指導者」で良いのではないか。

世古係長：文化財の部分だが、前段の部分は、文化財は保存と活用が同じく成立するようにしていくということなので、まずは保存があり、後段については、市内にある優れた文化財についてということで、この部分の「優れた文化財」とは、指定や登録などを受けていないいわゆる広い意味での文化財だが、それに関して市の指定を行っていく、もしくは県の文化財にするためには基本的に市の文化財になっていないといけないので、さらに県の文化財登録に向けた調査を進めていきます、という表現になっているという状況である。

委員：保持活動と調査活動はまったく別立ての行動であって、それは同じ方向という訳ではないと思う。

世古係長：文化財保護行政の中ではこれはセットになる。要するに調査については、文化財の価値をいかに明らかにしていくか、明らかにされた価値をさらに保存する、継承するという事で互いにリンクしてくるので、ここでは一つのセンテンスで書いている。ただ、「登録」という言葉は、「県指定文化財の指定に向けた」というのが本当かもしれないが、県指定文化財という言葉があったのでこの場合は「登録」という表現をしたのだと思う。色々なところを見ると、「～指定文化財への登録」という言葉を使っている事例も見受けられるので、伝える意味ではこれで問題はないかと思う。それと、「関連する計画」の中に「尾鷲市教育ビジョン」などの追加を検討する。

◆422 生涯スポーツの推進について

委員：この間のオープンウォータースイミングは、とても良かったという連絡をもらっている。ぜひ尾鷲に持ってくるように努力していただきたい。

世古係長：協力いただいた県や水泳協会の関係者にも三木里を気に入っていただき、好感触を得られたのでこれはぜひ続けたい。

委員：この場合も待っているのではなく、自分たちから進んで行っていただきたい。

世古係長：積極的に連絡調整を取っており、お互いその方向で行きたいという話になっている。

委員：手伝いに行っていた人たちも本当に来てほしいという意見が多かった。来ることによって尾鷲市の名前も全国に売れるし、また尾鷲へ来ようかという人も出てくるかと思うので、絶対これは逃がさないでいただきたい。

世古係長：今回全国から参加した選手たちにも会場を気に入っていただいたようだったので、色々なところにも打っていきたいと思っている。

委員：できれば事前に知らせてほしかったと高齢者が言っていた。すごく良かったと聞いたが、知らなかった、ぜひ見たかった、と。田舎の人は子どもがマラソンしていたらみんなが出てきて応援してくれるから、もっと盛り上がってもっと良かったのではないか。

委員：この会議でも前から言っているが、広報的なことももう少ししっかりやってほしい。

委員：配られても字は読まないの、前日と当日に、オープンウォーターでは分からないので、昔の言葉で、「遠泳」が見られるから応援して欲しいと。あまり暑くない6月くらいにやるのはどうか。

世古係長：水温の条件がある。

森下係長：地元の人たちが歓迎してくれていたら、来た人たちも嬉しいだろう。

委員：見ている人も競泳者も暑くない時期にしたら皆が盛り上がるので、そこをもう少し緩和してほしい。

佐野課長：国体との絡みもある。大会はプロの方が運営している。

世古係長：オープンウォーターは海限定とは限らない。三木里だとお盆を過ぎたらクラゲが出てくるので、もしやるなら前にできるかどうか。

佐野課長：今回はなかったが台風の話も出てくる。

委員：もう一つ、小学校と中学校のスポーツの大会のほうもよろしくお願ひしたい。

委員：熊野と紀北町に負けている。

委員：指標のところで人数が変わっていないのはまずいのではないか。

佐野課長：例えば 68000 とか、現状維持を狙うにしても同じ数字が並ばないように検討したい。

委員：前の委員の方がウォーキングを入れてはどうかというので、尾鷲はトレイルもとても良くて、尾根全体で海と市街地がずっと見えたまま歩いて来られる全国で唯一の場所らしく、スポーツとしてウォーキングやトレイルが脚光を浴びているが、これの入込客もきっと多いと思うので、ぜひオープンウォーターと一緒に明記して、力を入れていていただきたい。それと「主な取り組み」の5番目、「スポーツ推進委員とともに」のほうが良いのではないか。

◆423 国際交流の推進について

委員：もうプリンス・ルパートとの交流などの予定はないのか。

森下係長：今年、以前尾鷲からカナダへ行った時のホームステイ先の方が尾鷲市へ来てくれて交流があったが、なかなかこちらから行ってという機会はできていない。

委員：プリンス・ルパートは本当に良いところなので子どもたちを行かせてあげられたら良いと思う。

委員：お金がかかるし、よほど受け入れ態勢の豊富な理解のある、そういうのがあれば良いが、なかなか難しい。